

	方剂名	効能	生薬組成
	書籍	主治および証	病機 方意
補益剤 補陰剤 4			
	<p>にしがん 二至丸</p> <p>医方集解</p>	<p>補腎養肝</p> <p><主治> 肝腎陰虚 腰や膝がだるく無力、遺精、頭のみらつき、目がかすむ、不眠、多夢、早期の白髪、舌質が紅絳、舌苔が少、脈が細数など。</p> <p><病機> 肝腎の精血不足による症候である。 腎は骨を主り髓を生じるので、腎精が不足すると、下では腰や膝が軟弱無力になり、上では頭のみらつきがみられる。肝は目に開竅し、髪は血の余であり、肝血が不足すると目がかすんだり視力が減退し、毛髪も栄養されないために早期から白髪が生じる。肝腎不足で疏泄と封蔵が失調するので、精関不固になって夢精、滑精がみられる。夜間には陽が裏に入ることによって安眠するが、陰虚のために陽気が相対的に有余し、陽が裏に入らないので不眠、多夢がみられる。舌質が紅絳、舌苔が少、脈が細数は陰虚内熱を表わしている。</p> <p><方意> 本方（二至丸）は、平補肝腎の方剂である。 女貞子は甘苦、平で滋腎養肝、明目に、旱蓮草は甘酸、寒で養陰益精、涼血に働き、酸甘化陰して性質が緩やかであり、肝腎の陰血を滋養して滋膩でない。丸剂にして緩徐に滋補するのがよい。</p> <p><参考> 二至丸には、甘酸、平の桑椹を加え滋補肝腎を強めた方剂もある。</p>	<p>女貞子・旱蓮草各等量</p> <p>旱蓮草の煎汁を濃縮し、女貞子を蒸熟した後粉末にし、両者を混合して蜜丸にし、朝、晩に15gずつ湯で服用する。</p>